

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：有馬川はなみずき保育園	種別：保育所	
代表者氏名：原田 真弓	定員（利用人数）： 60名	
所在地：川崎市宮前区東有馬5-23-43		
TEL：044-870-3434	ホームページ：http://www.fujimiplaza.com/hanamizuki	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人子の神福祉会		
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 9名	
専門職員	（専門職の名称）	
	保育士 18名	
	看護師 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6	

③理念・基本方針

<保育理念>

- ・保護者と協力しながら、子ども一人ひとりの主体性を大切にしていく。
- ・地域の人々との交流を図り、子育て支援を通じて、福祉の役割を担う。

<保育方針>

- ・保護者と協力関係を築き、子どもが安心して過ごせる保育環境を作る。
- ・一人ひとりの個性を大切にしながら、子どもの発達に応じた活動が出来るよう環境を整える。
- ・一人ひとりの子どもの思いを受け止め、主体性を大切に支援する。
- ・地域の人々と関わる中で、子どもの健やかな育ちを保障する。
- ・人の話を聞いたり、自分の思いを伝える中で、考える力を育てる。

<保育目標>

- ・心身共に健康な子
- ・人を思いやる子
- ・感性豊かな子

④施設・事業所の特徴的な取組

- 今年度の目標に「自主的な遊び」を掲げ、子どもたちが室内で自由に好きな遊びを選ぶことができるよう、コーナーごとにおもちゃを置いている。人形ごっこコーナーや、お絵かきコーナー、折り紙コーナーなど、子どもたちの興味を引くおもちゃを工夫して置いている。園庭でも、自由に遊具を選んで遊ぶことができるようにしているが、乳児クラスが外遊びをしている時は、三輪車は危ないので止めようなど、子どもたちと一緒にルールを決めて、外遊びをしている。
- 食育に力を入れ、子どもたちが楽しみながら、おいしく食事を摂ることができるよう

取り組んでいる。鍋パーティでは、買い出しから準備までを子どもたちが担い、自分たちで作る楽しみや、給食とは違う雰囲気を楽しんでいる。夏には流しそうめんを企画したり、おやつクッキーの型抜きを楽しんだり、秋には栄養士による「さんま祭り」を行い、秋刀魚を見て、触って、食べ方や骨の取り方などを教わっている。また、食品群を3色に分け、赤は身体をつくる、黄色は元気いっぱい、緑は風邪を引かないなど、食の大切さを楽しく学んでいる。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月1日（契約日）～ 2021年2月3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- 有馬川はなみずき保育園は定員60名の小規模の園で、1階に0～2歳の乳児クラス、2階に3～5歳の幼児クラスの保育室がある。どのクラスも10名前後の人数で、アットホームな雰囲気の中、職員が子どもたち全員を把握して、一人ひとりの個性を大切に保育を実践している。
 - 0歳児の保育では、離乳食を開始する4月から6月頃は、担当保育士と看護師の他に、もう1人保育士が加わり、ミルクや離乳食、おむつ替え、沐浴などを行っている。子どもたちは成長しているが、保育士の抱っこや遊びなどで触れ合いをたくさん持ち、愛着関係を築くことができるよう関わっている。午睡時には優しい音色のオルゴールをかけて、安心して眠りに入ることができるよう、SIDS（乳幼児突然死症候群）対策を行いながら、保育士が傍で見守っている。
 - 1歳以上3歳未満児の保育では、子どもたちは、免疫が希薄になってくる時期なので、咳が出たり、鼻水が出たり、熱が出たりすることがないか、健康状態に気を付けている。この時期は、自分でやろうとする気持ちが芽生えてくるので、その気持ちを大事にして保育している。また、子どもたちは活発によく動き始める時期なので、どこで何をしているか、一人ひとりをしっかり把握することが大事と考えている。
 - 3歳以上児の保育では、ほとんどの子どもが自分のことは自分でできるようになっているが、個人差もあり、一人でできない子どもは、保育士が手伝いながら着替えなどを行っている。年中や年長クラスの子どもは、喧嘩をしても自分たちで解決できるようになってきたり、当番を決めて園での生活の役割を担っている。
 - 園の近くには公園がたくさんあり、散歩マップを作成し、子どもたちはどこへ行くか自分たちで決めて楽しんでいる。今の時期はドングリや落ち葉を拾ったり、春はオタマジャクシを捕まえたりしている。園庭でも、子どもたちが思い切り、身体を動かしている。
 - 異年齢保育の時間を作り、幼児クラスと乳児クラスの子どもが一緒に遊び、上の子どもが下の子どもの面倒を見るなど、小さい子どもへのいたわりの気持ちを育てている。乳児クラスの子どもは、上の子どもに憧れ、自分でやってみようとする気持ちが芽生え、お互いに成長し合っている。
 - 年3～4回、幼児クラスを対象に、看護師が「健康集会」を開催し、手指の洗い方などを子どもたちに指導している。特殊なライトを使って、洗えているかどうかを確認したり、咳をしたときに飛沫がどれくらい飛ぶかを、糸の玉を紐につけたものを飛ばして、飛沫感染の話をして、子どもたちが健康に関心を持つことができるよう働きかけている。
 - 今年度はコロナ禍で中止しているが、川崎市有馬・野川生涯学習支援施設「アリーノ」

が近くにあり、アリーノ音楽祭の参加や、同一法人内の特別養護老人ホームを子どもたちが訪問し、地域や高齢者との交流を深めている。アリーノが行っている子育て支援事業「もこもこルーム」に職員を派遣して保育相談を行う他、園の子どもたちも、体操や制作に参加している。園の「移動水族館」には、地域の子育て親子に参加を呼びかけている。

- 指導計画を始め、記録類のデジタル化を進めている。コドモン～保育のICTシステム（指導案の作成、記録、登降園管理、シフト管理、保護者アプリなど）を活用して、記録類を管理する他、連絡事項や「園だより」などを保護者に配信している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

- 結果については、今後の運営の参考とし、保護者が安心して預けられるように努めていきます。
- 保育園中・長期計画、事業計画に則った目標管理保育園運営を行う。
 - ・事業計画、中・長期計画については、年度末には見直しを行っているが、進捗状況を定期的に確認するとともに、定期的な計画の見直しを行う。
- 保護者に日常的に園での子どもの様子を伝える努力をする。
 - ・送迎時などの保護者への伝達事項や日常的に園での子どもの様子、保育の様子を伝えること、行事アンケート結果を伝えるなど保護者との良好なコミュニケーションを図り、日々の保育がみえるようにしていく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり